

- 「鶴居村農泊宣言。2600人の小さな村で暮らす旅」をキャッチフレーズに、酪農や乳製品、湿原などの自然環境等を活用し、地域経済や農村の活性化に資する農泊を展開。村内全体が連携し、滞在型観光プログラムを構築。

基本情報

- 所在地：北海道阿寒郡鶴居村
- 選定表彰：
 - ・令和2年度農林水産大臣賞（豊かなむらづくり表彰事業農林水産祭むらづくり部門）
 - ・第3回「ディスカバー農山漁村の宝」（H28）
 - ・北海道開発局主催「わが村は美しく－北海道」運動第9回コンクール優秀賞
- 主力商品・イベント：
 - ・ワーケーションガイドブック
 - ・ガストロノミーツーリズムガイドブック
- 活用した支援施策：
 - ・平成29年度農山漁村振興交付金(農泊推進対策)

取組の概要

- 「鶴居村農泊宣言」をキャッチフレーズに、釧路湿原やタンチョウ等の自然資源と、主産業の酪農による乳製品等を活かした農泊事業を推進。
- 英語HP、SNS、海外現地PR、アフターコロナを見据えたオンライン交流などインバウンドを意識した情報発信。
- 滞在型観光促進のためサイクルやフットパスのルート設定、宿泊者に電動アシスト自転車をレンタルするモニター調査を実施。
- ワーケーション等の新たな旅のスタイルとして、「暮らすような旅」や子連れワーケーションによる「旅育」など鶴居ならではの旅のかたちを提案。
- 村内事業者と連携して貸別荘などの宿泊者をターゲットに、シカ肉やチーズ等の特産品セットの配達販売を試行。
- 地域資源を活用した商品開発や観光PRにより認知度向上や交流人口増加を図り、地域消費の拡大や更なる移住の促進を目指す。



「旅」と「仕事」を楽しむ子連れワーケーションの推進



ジビエ等の地元の食を味わうガストロノミーツーリズム

体制図



取組の成果

- 鶴居村観光入込客数の推移（人）

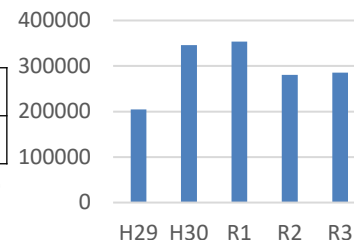
H29	H30	R1	R2	R3
204,800	346,200	354,100	280,800	285,400

（釧路総合振興局調べ）

- 鶴居村総人口の推移（人）

H22	H27	R2
2,627	2,534	2,558

（国勢調査市町村別総人口）



ウェブサイト▶<https://tsurui-kanko.com/>

地域資源：農林水産物、廃校
 事業分野：食品、観光・旅行、福祉
 事業主体：農林漁業者、企業、福祉施設、地域おこし協力隊、大学

○人口流出を軽減する「福祉」と関係人口の拡大を目指す「交流」を2本柱として、農産物の収穫などの体験観光事業や廃校を活用した交流拠点の整備等を展開。

基本情報

- 所在地：北海道二海郡八雲町
- 選定表彰：
 - ・令和4年度農林水産祭むらづくり部門農林水産大臣賞
- 主力商品・イベント：
 - ・ホタテ、ネギ、カボチャ等
 - ・体験観光事業
- 活用した支援施策：
 - ・地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業（観光庁）

取組の概要

- 障害者雇用も活用し、月2千円で毎週その時期に旬な野菜をお任せで届けるサブスクリプションサービスや農漁家への支援作業を実施。
- 「八雲グリーンツーリズム推進協議会」の事務局として、農家・漁家と交流や体験活動を行う体験観光事業を実施。
- 廃業した銭湯をリノベーションし、カフェ兼ゲストハウス「SENTO」を整備。野菜の直売所や地場産品を使用したカフェを併設。
- 町内の廃校をリノベーションし、キャンプ場兼レンタルスペースとして活用。



体験観光（ネギの収穫）

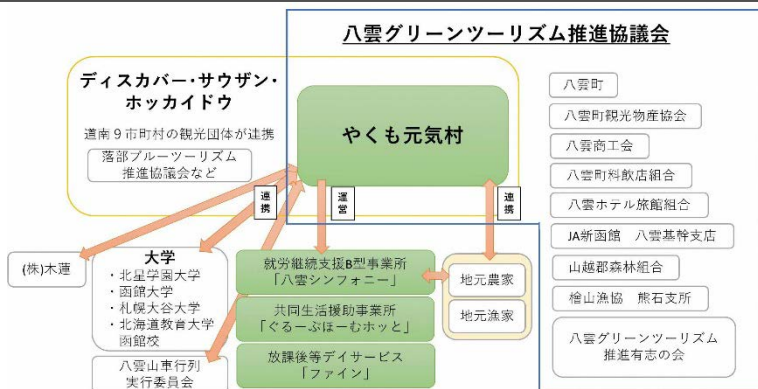


宅配用野菜の搬入



カフェ兼ゲストハウス「SENTO」

体制図



取組の成果

- 野菜の宅配・販売事業：約185万円（R4）
- ゲストハウスSENTOの宿泊者数：のべ1,458人（R4）
- 移住者：15人

ウェブサイト▶<https://yakumo-genkimura.com/>

オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会

地域資源：農林水産物、景観
事業分野：食品、観光・旅行
事業主体：協議会、地域企業

- オホーツクの自然環境、産業と触れ合う新しい旅の形を目指し、地域の様々な関係者と連携した体験コンテンツを創出。また、地域産業ガイドの育成にも力を注いでおり、雇用の創出にも貢献。

基本情報

- 所在地：北海道網走市
 - 選定表彰：
 - ・第9回「ディスカバー農山漁村の宝」(R4)
 - 主力商品・イベント：
 - ・体験コンテンツ造成
 - ・地域産業ガイドの育成
 - 活用した支援施策：
 - ・農泊推進対策 (H30)
 - ・観光庁 インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業 (R5)
- サイクリングガイド育成、様々なアクティビティを組み合わせた総合的アドベンチャーツーリズムの造成
※連携先の事業者が代表となり受託

取組の概要

- オホーツクの景観を楽しめるカヤックやサイクリングなどを含めた複合型のアドベンチャーツーリズムや、日本一の産地である玉ねぎの皮を使った染物体験等、充実したアウトドア、インドア体験を提供。
- 交流拠点「connectrip (コネクトリップ)」を国立公園内の湖畔に開設。地元の生産者等と連携し、農漁業体験や景観、地元の食材の料理が楽しめる複合型ツアーの造成など、異業種間の連携強化を後押し。
- 地域住民を主な対象としたガイド育成講座を開催することで、地域産業を発信できる兼業ガイドを育成し、地域の雇用を創出。
- 地域の基幹産業である農漁業に触れる体験学習を市内小中学校に提供実施



漁業者の協力により実現したオホーツク海の流氷カヤック



講習会により育成されたガイドメンバー



体験学習 (農家訪問)

体制図

オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会が運営する connectrip (コネクトリップ) 組織図

イベント企画・推進部門：

- ・各種イベントの開催
- ・室内イベントの企画
- ・人材発掘
- ・イベントの許可申請など

教育旅行部門：

- ・行政への提案や報告
- ・ガイドとの連携

人材育成部門：

- ・ガイド育成 (カヤック・サイクリング等)
- ・イベント調整

環境整備部門：

- ・国立公園法申請
- ・湖・川・海・河川占有許可申請など

情報発信部門：

- ・HP管理
- ・各種OTA入力業務など
- ・チラシ作成

営業・経理部門：

- ・補助金関係申請、報告
- ・経理 (事業費・補助金)
- ・新規事業営業・商談会など

取組の成果

- アクティビティ体験売上 : 31万円 (H30) → 881万円 (R4)
- 室内外アクティビティ体験者数 : 0人 (H29) → 1,000人 (R4)
- 地域産業ガイド : 0人 (H29) → 23人 (R4)
- 体験コンテンツ数 : 0 (H29) → 32 (R4)
- 教育旅行・総合学習体験受け入れ : 0 (H29) → 610人 (R5)

ウェブサイト▶ <https://connectrip-okhotsk.com/>

社会福祉法人 誠友会 工房あぐりの里

地域資源：農林水産物
事業分野：食品、観光・旅行、福祉、教育
事業主体：生産者、高校、NPO法人

- 「誰もが地元で安心して暮らし続けられる地域づくり」を目指して、平成20年から本格的に農業生産と6次産業化に着手。観光農園は年間40万人が訪れる県内有数の観光スポットとして、障害者・高齢者の活躍の場として、更には地域の交流拠点として発展。

基本情報

- 所在地：青森県おいらせ町
- 選定表彰：
 - ・ノウフク・アワード優秀賞（R3）
 - ・第7回「ディスカバー農山漁村の宝」コミュニティ部門（R2）
 - ・地産地消等優良活動表彰（交流促進部門）農林水産大臣賞（H27）
- 主力商品・イベント：
 - ・小麦、キクイモ、イチゴ、南国フルーツ等
- 活用した支援施策：
 - ・農山漁村振興交付金（農福連携対策）（R2）

取組の概要

- 障害者の就労する場として、新鮮な野菜や南国フルーツを栽培できる大規模なハウスや直売所、加工施設、レストラン、圃場等が整備されており、土づくりから苗の植え付け、収穫作業、調理補助や加工作業、動物の世話など職種は多岐にわたる。
- 1人1人が抱える症状に合わせて仕事内容を調整するなど、自らの能力とペースで仕事をこなし、達成感ややりがいを得ながら働けるよう、農業を含む様々な職種の従事者が障害者とともに働き、支援・連携しながら作業を行っている。



熱帯ハウスのバナナ栽培



バリアフリーのイチゴ高設栽培



野菜加工施設

体制図

【観光農園アグリの里おいらせ】

- ・株式会社アグリの里おいらせ（農業法人）
- ・工房あぐりの里（福祉サービス事業所）
- ・NPO法人平成謝恩会（地域貢献）



- ・ふるさとの味研究会（高齢農業者団体）
- ・地元農業者
- ・地元公立高校

農作業委託・加工品の共同開発

取組の成果

- 平均工賃（B型）：16千円（H22）→ 25千円（R2）
- 収穫された小麦の取扱店舗：21店
- 関連商品：40種類以上を開発・販売
- 商品開発：ピクルス、ドレッシング、ふりかけ、漬物等の全9種類の新商品を開発。

ウェブサイト▶ <http://agurinosato.jp/index.html>

地域資源：農林水産物、牧場、南部曲屋育成厩舎
 事業分野：畜産、加工・販売、観光・旅行
 事業主体：農林漁業者、地元協議会

- 循環型畜産、観光牧場、6次産業化の実践により、経営規模の拡大と就労環境の向上を実現し、持続可能な農業を展開。
- 南部の馬文化と地域とのつながりを大切にしながら、七戸町の滞在・周遊型観光の拠点として地域振興を推進。

基本情報

- 所在地：青森県七戸町
- 選定表彰：
 - ・全国肉用牛枝肉共励会(第二部)名誉賞 (R3)
 - ・第60回全国農業コンクール 農林水産大臣賞受賞 (H23)
 - ・全国優良畜産経営管理技術発表会 農林水産大臣賞受賞 (H21)
- 主力商品・イベント：
 - ・肉牛
 - ・ふれあい牧場（ジェラート、レストラン等）
- 活用した支援施策：
 - ・6次産業化推進整備事業 (H23)
 - ・農山漁村振興交付金(農泊推進対策) (R1)

取組の概要

- 循環型畜産（牛糞堆肥を肥料に飼料作物を生産等）を実践し、地域の同業者及び農業者とも連携しつつ、オリジナルブランド牛を含む1.5万頭を肥育。
- 豊かな社会生活に向け、自然や動物に触れ合える牧場を解放し、手作りのジェラート店、自社牛肉のレストランを整備、地域の歴史的建物である南部曲屋育成厩舎を改修。
- 七戸町「南部の馬文化」活用協議会と連携し、自社所有のふれあい牧場を滞在・周遊型観光及びインバウンド対応の観光交流の中核拠点として地域振興を推進。



牧場レストランNARABI
黒毛和牛ステーキ

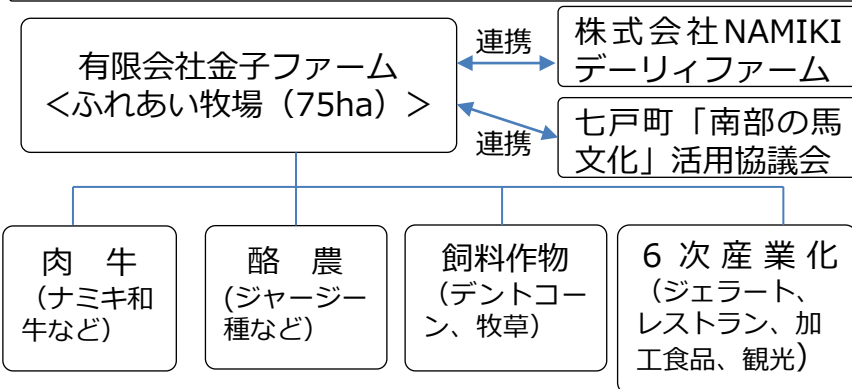


手作りのジェラート
(ジャージー牛のミルク使用)



七戸の馬文化の記憶を伝える
南部曲屋育成厩舎（登録有形文化財）

体制図



取組の成果

- 6次産業化の売上高：2億円 (R3)
- 雇用機会の創出：30人 (R3)
- ふれあい牧場への来場者数：約20万人 (R3)

ウェブサイト▶<https://www.kaneko-farm.jp/>